

鉱工業生産指数から見る東日本大震災が与えた中部地域への影響

～震災直前の約9割の水準にまで持ち直しており、生産は増加している～

平成23年9月14日

中部経済産業局

1. 地域別で見た生産動向

➤ 東日本大震災は、中部地域にも大きな影響を及ぼした。平成23年3月の鉱工業生産指数(以下、略して「IIP」と表記)は、過去最大の低下(前月比▲18.1%)を記録した。

〔 ※比較可能な昭和34年2月以降、過去最大の下落率(伊勢湾台風時の前月比▲13.5%をも凌ぐ下落率)。
 ※特に東海地域は、全国の中では、被災した東北地域に次いで大幅な下落率を記録。 〕

➤ ただし、4月を底に3カ月連続で上昇し、6月には前月比+11.8%と過去2番目(1番は昭和34年11月の+19.4%)の上昇となるなど、力強い持ち直しの動きがみられた。

図1-1. 全国・各地域のIIP

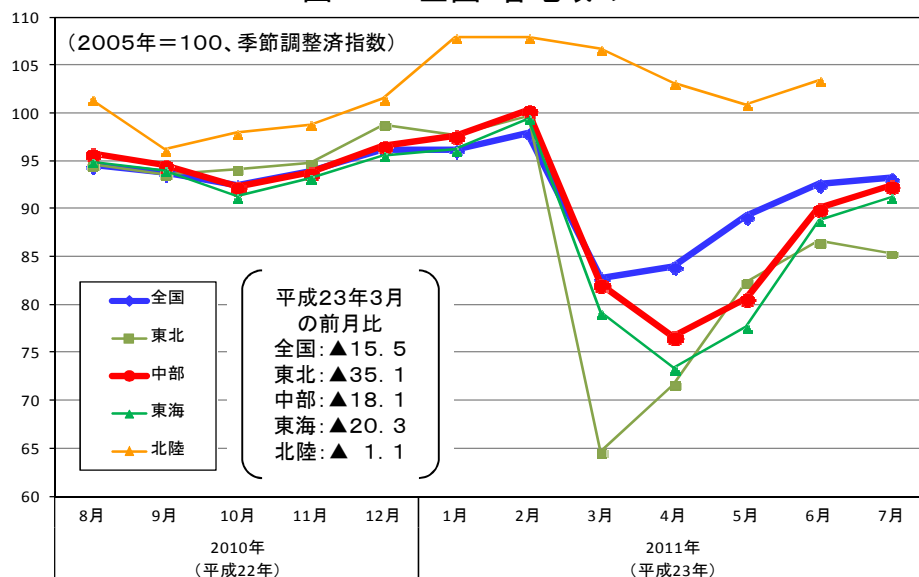
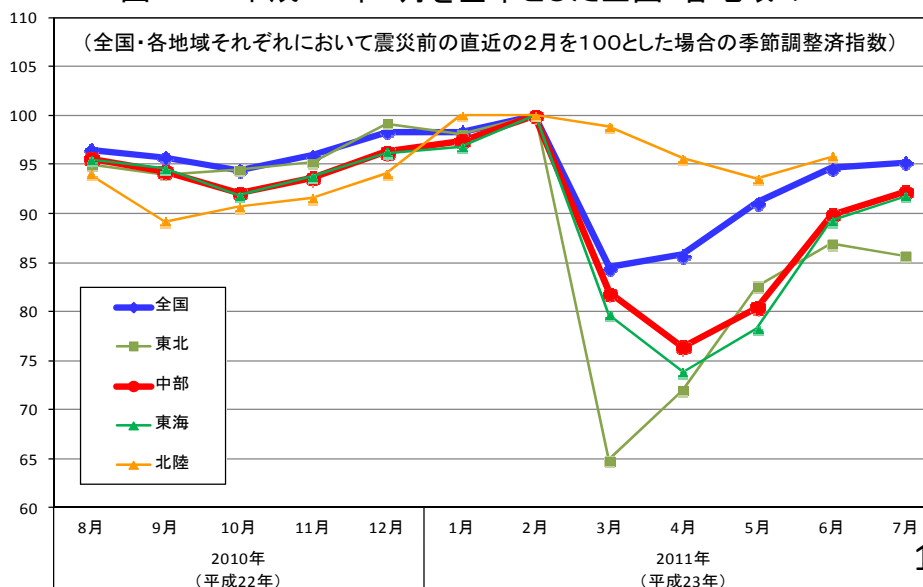


図1-2. 平成23年2月を基準とした全国・各地域のIIP



2. 中部地域で特徴的な動きを示した業種の動向

- 中部地域では、業種別に震災の影響を見ると、輸送機械は、5月に上昇に転じている。鉄鋼業は、その翌月に上昇の動きを示している。
(※東北地域からの半導体や樹脂などの部品供給が寸断し、完成車の生産は、1カ月ほど滞った。)
- 一般機械は、部品供給の寸断が部分的であったこともあり、下落幅は小さく、4月には持ち直しの動きがみられる。
- 食料品は、東北地域からの代替生産により上昇した様子が見られる。

図2-1. 主要業種のIIP

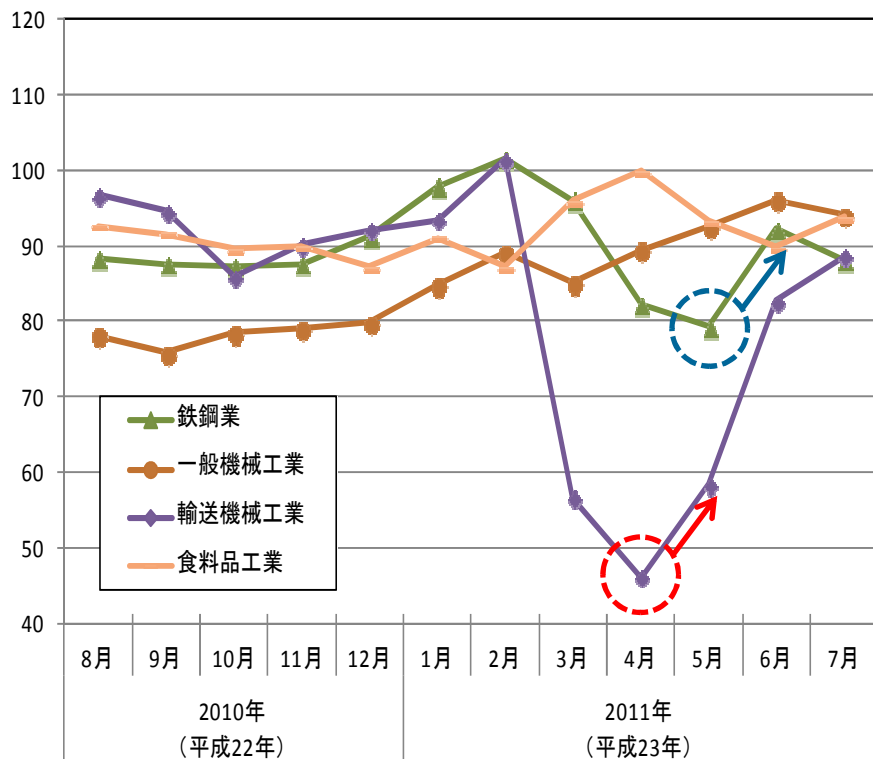
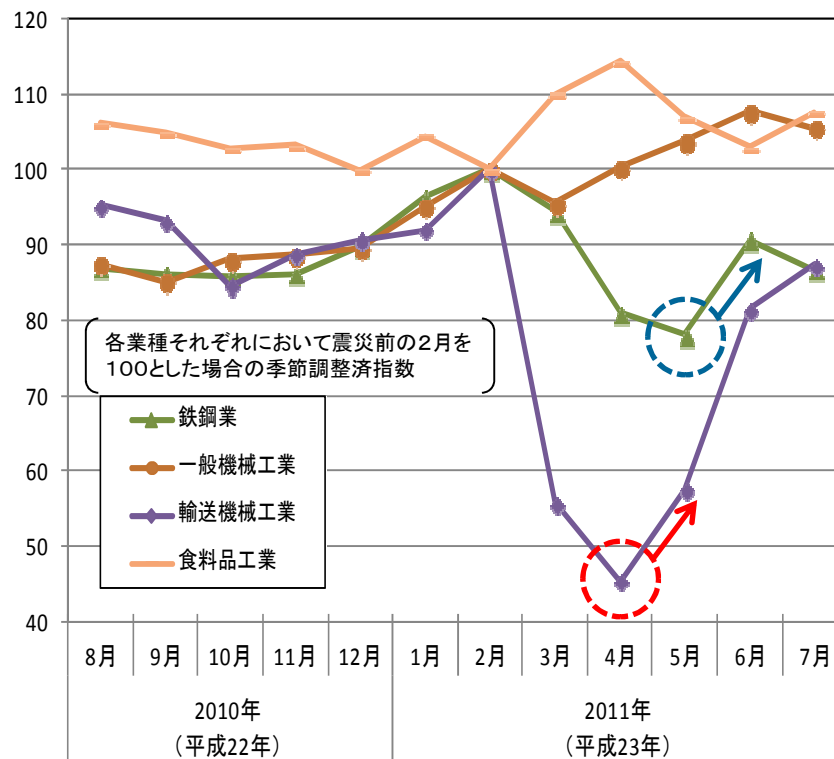


図2-2. 平成23年2月を基準とした主要業種のIIP



3. 業種別・財別で見た中部地域の生産への寄与度

- 業種別前月比寄与度を見ると、鉱工業の生産の低下・上昇は、輸送機械の低下・上昇が圧倒的に寄与している。また、寄与は小さいものの、低下では電子部品・デバイスが、上昇では一般機械、電気機械などが続いている。
- 財別を見ると、低下では生産財の寄与が大きい。上昇では5月は耐久消費財（乗用車など）が最も大きく、6月は生産財（自動車部品など）が最も大きく寄与している。
- このことから、全国の中で最も輸送機械のウェイトの大きい東海地域が、東北地域に次ぐ大きな影響を受けたことや、生産の持ち直しは、乗用車生産から自動車部品生産へと波及している様子がうかがえる。

図3-1.直近5カ月の業種別前月比寄与度

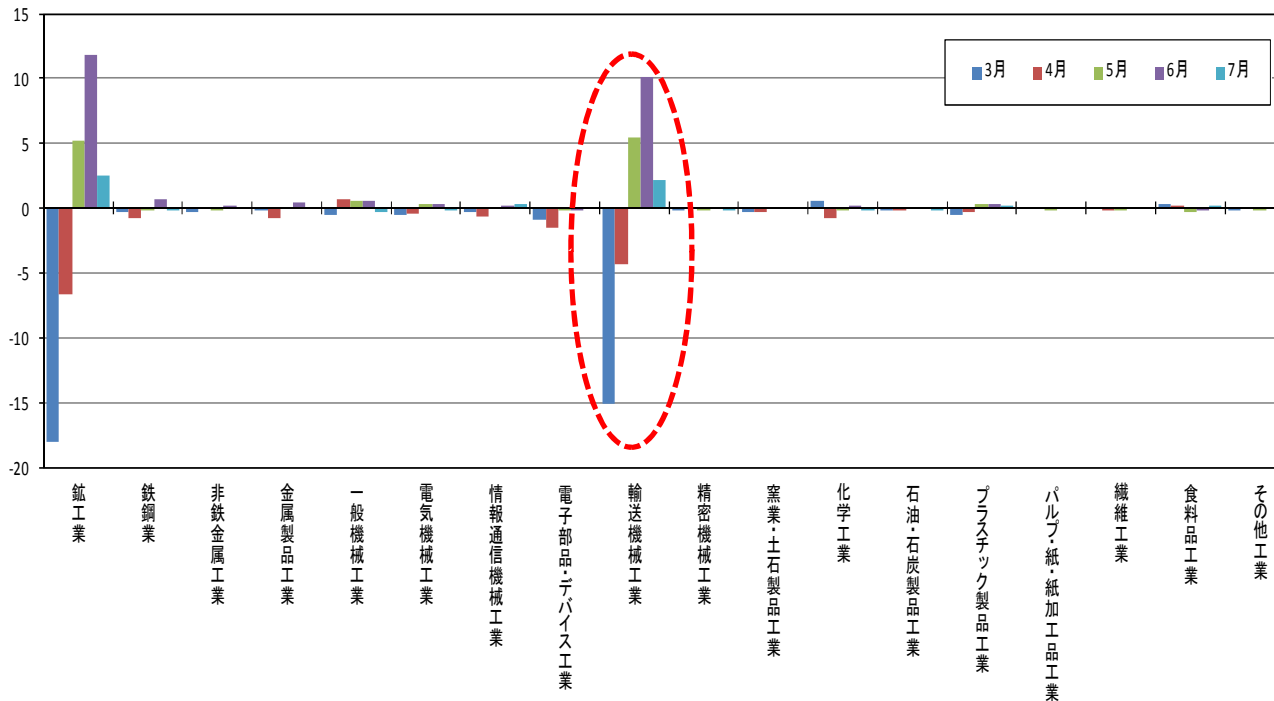
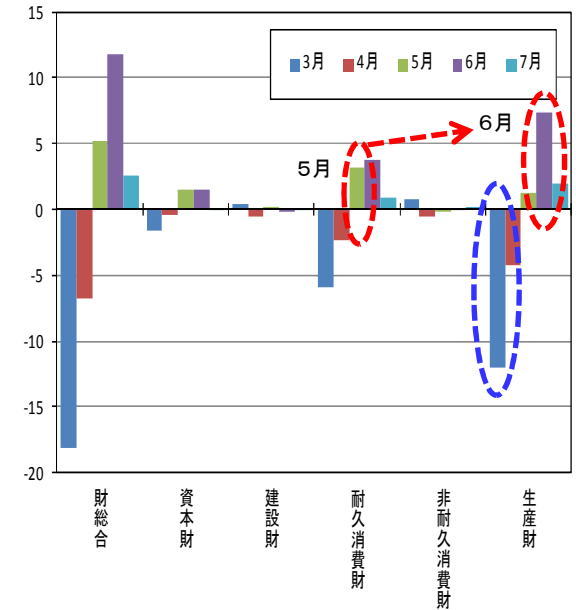


図3-2.直近5カ月の財別前月比寄与度



4. 自動車関連品目の動向

- 自動車関連品目(輸送機械、鉄鋼業、窯業土石業などから自動車生産関係品目を抽出)(鉱工業の生産指数ウェイト10000のうち、自動車関連品目は4353.3に相当)で見ると、
- 5月には、乗用車やバス・トラック、自動車部品(シャシー・車体部品、乗用車用エアコンなど)が前月比でプラスに転じており、完成車や自動車部品を中心に回復している。
 - 6月には、鋼材や鋳物やばねなどが前月比でプラスに転じており、サプライチェーンの立て直しが進み、完成車生産の再開による部品部材の出荷が可能となり、自動車関連産業全体へ本格的な持ち直しの動きが広がった。
 なお、輸出比率の極めて高い部品については、震災の前後で動きが小さく、震災の影響は少なかった品目もある。

図4-1. 自動車関連品目のIIP

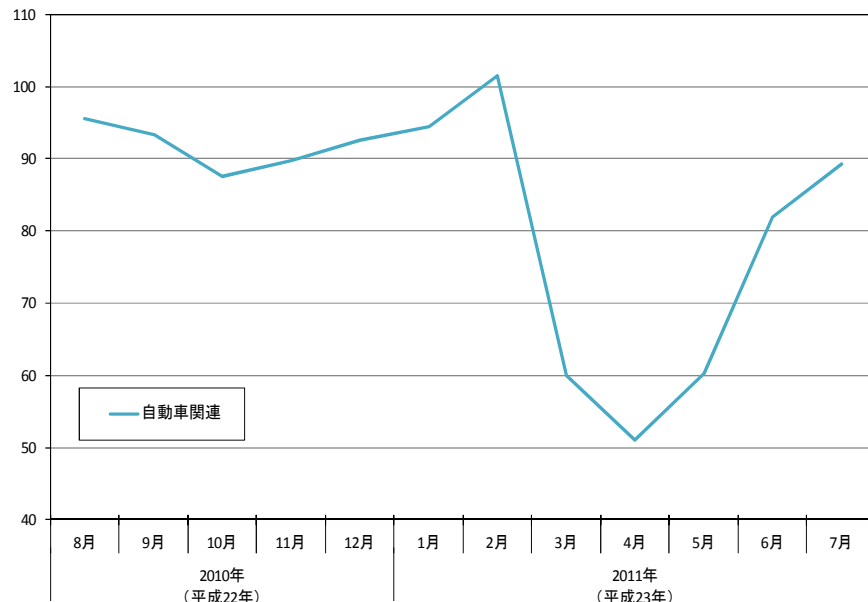


図4-2. 主な自動車関連品目の対前月増減率の推移

